

思い出す人々

西山 厚 全24回

第8回 【叡尊】

鎌倉時代に奈良の西大寺など多くの寺々を復興した叡尊は、7歳でお母さんを亡くしている。

悲母、三人の少児を懐のうちに置いて逝去しおわんぬ。予は七歳、次五歳、次三歳なり。

78年後、叡尊はこう記した。短い文章だが胸に迫る。懐のうちに置きて。叡尊のお母さんは三人の小さな子どもを抱きしめながらこの世を去った。

やがて成長した叡尊は誓う。五濁悪世でもつとも苦しんでいる人を救いたい。そのためなら地獄の苦しみにも耐えよう。幸せな世界、浄土へは行かない。

五濁悪世は最低最悪の世界。そこへ行きたい。そこで苦しんでいる人を救いたい。誓いの最後に「その功德は亡き母に廻向する」とある。ハンセン病の人たちの救済など、叡尊が生涯をかけた活動の背景には、亡くなったお母さんへの切なる思いがあった。

父母が病気がちだったので、小学校の帰りに病院へ見舞いに行くことも多かった。歴史のなかで、幼くして親を亡くした人に心ひかれるのは、そういう体験のためだろうか。叡尊に出会って、私は私になった。